

「第4回 北海道大学フィンランドデイ みんなで夏至祭を楽しもう!」を開催

夏至祭を祝い2016年から開催しているフィンランドデイは、第4回目の開催を迎え、6月15日(土)に本学欧州ヘルシンキオフィスの主催(北海道フィンランド協会ほか共催、フィンランド大使館、在札幌フィンランド名誉領事館、札幌国際プラザ等の後援)により、学術交流会館で実施しました。今年、日本とフィンランドの外交関係樹立100周年であり、今回は、その100周年記念行事の1つとして開催したものです。

まず、欧州ヘルシンキオフィス田畑伸一郎所長(スラブ・ユーラシア研究センター教授)の開会挨拶の後、保健科学研究所の横澤宏一教授の司会のもと、第1部では、高等教育推進機構の池田文人准教授が「なぜムーミンを大学で?」と題して講演を行いました。続いて、フィンランド北部大学合同北海道事務所元代表のユハ・トゥイスク氏から、自身の交流経験をもとに「北海道-フィンランドの交流:私の10年間」について、本学工学院の中野佑美氏から、フィンランド北部ロヴァニエミ市での留学生活についてお話しいただきました。

第2部では、「今を生きるフィンランドのフォークミュージック」と題し、サルミアッキ(札幌カンテレクラブ)の皆さんが、伝統楽器カンテレの演奏と歌を披露しました。来場者の方々にも一緒に歌っていただく場面があり、楽しんで参加している様子が伝わってきました。続いて、北極域研究センターのユハ・サウナワラ助教が「フィン日関係史」と題して講演を行いました。登壇者はそれぞれの視点で

フィンランドについて講演し、約160名の来場者には、外交関係樹立100周年に際し、フィンランドについてより関心を高めていただける機会となりました。閉会後の懇親会においても、お互いの親睦を深め、活発な情報交換が行われました。

今回の開催にあたり、関連企画として、当日の午前中には、フィンランド短編映画上映会を各地で主催している玉手みどり氏の協力を得て、4本の映画を上映し、約85名の来場がありました。また、学術交流会館のロビーにおいて、北海道総合政策部航空局によるフィンエアー新千歳就航PR展示を行ったほか、協賛いただいたデモラ・グローバル社、さくらCSホールディングス株式会社、IKEUCHI GROUPが関連する本学のデモラプログラム*の紹介を行いました。本学の学生団体

である北大カフェプロジェクトには開場前と休憩時間にコーヒー等ドリンクを提供いただいたほか、北海道大学新聞には取材をしていただくなど、皆様から様々なご協力をいただきました。加えて、本学附属図書館では、7月上旬まで北図書館で関連資料展示を行いました。

欧州ヘルシンキオフィスでは今後も引き続きフィンランドデイを開催していきたいと考えています。

*デモラプログラム

企業が抱える課題に対し、学生と企業が協働して問題解決に取り組むフィンランド発祥のプログラム。本学は2018年に日本で初めて導入した。

(国際部国際連携課)



田畑所長による開会挨拶



ロビーでの展示の様子



サルミアッキによる歌の紹介



フィンランド短編映画上映会の様子